

# 生態系と地域社会から高校生が考察する 生物多様性が持続可能な多摩川・浅川とは

松尾知佳, 木村元春, 小荒井千響, 中西白州

東京都立八王子東高等学校

## ●目的

2020年、多摩川・浅川が台風第19号をきっかけに、人々の生活に関わるものであることが多くの人に認識されたことをレポートした。  
2021年、フィールドワークを通して、多摩川・浅川が台風後どのように変化したか、そこから、私たちの考える「自然の川とは何か」を考察していった。  
2021年、あらたなフィールドワークを通して「地域社会の人々が理想とする多摩川・浅川」について考察を行った。  
本年度は、さらに視野を広げ、地域社会も含めて市民が河とどう関わっていくことができるのかを、実際に河の事業に関わっている方々とともに「生物多様性が持続可能な多摩川・浅川」を含めて考察していくことを目的とした。

## ●漁協の人々が理想とする多摩川・浅川

多摩川漁業協同組合日野支部の皆さんの思い



多摩川はだいぶ綺麗になってきている。魚や動物の多様性ももどりつつあり、水質も人が入れるほど。「河=汚いもの・怖いもの」とは思わず、昔のように河に帰ってきて遊んで欲しい。そうすることで、河の大切さがわかってもらえる。

人命と安全が何よりも大切。そのうえで地域社会が河と関わっていくことや、できることを考えていかなくてはならない。コンクリート化の影響がわからないが、前の台風では、外来種も含めて魚がほとんど海に流れていってしまった。

→河に帰ってきて遊んでほしい それが自然保護につながる

## ●国の行政の人々が理想とする多摩川・浅川

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所の取り組み

瀬切れ（河に水がない区間）が存在する。湧水の減少や、降雨時の水質汚濁負荷が高い地域もある。森林が荒廃し、水量の安定維持に支障が出ている。防災の観点から、限られた予算内で対応していく。あらたな公園の施工や、環境整備など、市民の要望をすべて実現することは難しい。



河の深さや流れを必ず確保するため、流木や構造物は撤去される。



河川の改良工事  
改良工事は東京の河川ではよく見られる光景である。



残された流木  
防災に支障がなければ、流木を残すこともある。  
→生物が集まる



台風直後



約1年後

→防災と人命は大切 限られた予算内で実現する必要がある

## ●河川・用水路フィールドワークでの発見



発見  
ムギツク  
ムギツクの生息が確認された  
→ムギツクは本来関西地方の在来種。  
→アユの放流とともにやって来た外来種と考えられる。



発見  
ヨシノボリの繁殖が確認された  
→水質は魚類が生活できるほど綺麗。  
→ヨシなどの水生植物ではなく、セキショウモやカナダモに隠れて生息している。  
→後、ヨシノボリは浅川にもともといなかった外来生物であることがわかった（八王子市データより）。

東豊田公園では親子づれが水場で遊ぶ風景もみられた。わざわざこの地に車で来ている親子もおり、人々の心のより所となっている。



日野市の事業として「セキショウモ」が保護され、カナダモは除去されている。  
→用水路の維持は地域の人々によって支えられている。



用水路の水を引いて遊び場となっている東豊田公園

→地域の人々が声をかけてくださることが多い  
→農業用水路のある風景は人々の生活の一部

何かいるの？  
(みんな優しい)

## ●地域の人々・市民が「好き」な自然とは？

フィールドワークを通して多摩川・浅川は、水質の改善が進みつつあることや、生物の多様性ももどりつつあることがわかった。それだけでなく、地域の人々は多摩川・浅川のことが好きであり、本来あるべき自然のままの風景を継続していきたいと願っていることもわかった。

→では地域の人々・市民の自然に対する関心とは？

疑問

## ●生物多様性シンポジウム＆ワークショップに参加

シンポジウムを通じて八王子市の人々やワークショップで八王子に住む同年代の人々との「八王子の生物多様性の持続」について協議し、人々が自然に求めていることを探究していった。



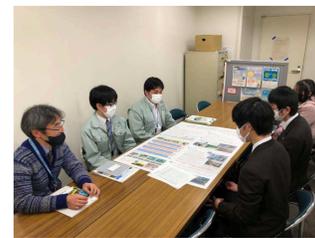
ワークショップでは他校の高校生の皆さんや東京都立大の沼田真也先生、アンバサダー・タレントの長沢裕さん、セブン-イレブン記念財団・高尾の森自然学校の後藤藤さんにご指導をいただいた。

### 【分かったこと】

→持続可能な生物多様性を実現するためには、観光資源としての八王子市の自然をアピールしていく必要がある。

→人々にもっと自然へ目を向けさせよう！川がある公園が必要

## ●八王子市環境政策課・水環境整備課の皆さんにインタビュー



市民の自然に対する関心を知るためには日常的に市民の声を分析することを仕事としておられる八王子市の環境政策課と水環境整備課の皆さんにインタビューすることが必要と考え、その機会を頂いた。

M1：みどりは以下の役割（機能）があるとされているが、あなたは市内のみどりについてどのようなことが大切だと思うか（〇は3つまで）  
18歳以上の市民2,000人対象



あっ！

### 【分かったこと】

・湧水の公園は多いが入ることはできない。  
・河川から水を引いた公園は数少ない。

→市民が公園に一番求めているのは「景観」

→「自然」や「生物多様性」ではない →安全確保が大切

## ●まとめ 高校生が考える生物多様性が持続可能な河川

### 【Before】

- ・ヒトの生活に密着しつつ生物の多様性を担保する  
⇒樹木は河川内ではなく河川の周囲に配置  
⇒小魚や稚魚が隠れることができる工夫
- ・水害を抑えることができる  
⇒経済的観点から、放置できる流木等は放置



### 【After】 上記に加えて

- ・事実、私たちの幼いころの体験が生物多様性を考えていこうとする原動力となっている

生き物が捕獲できる河川の水を引いた公園  
安全も確保する  
美しい景観は人々に目を自然に向けさせ生物多様性の維持に繋がる

人々が集うことができ、子どもたちが生き物と触れることができるイベントを行う  
若者も参加したいと思えるイベントが望ましい

